

外国の絵本

北川和男氏にきく

過去二回、「せかいの絵本」展示即売会を開催した丸善を訪れ、

係の北川和男さんにお会いして、会のいきさつ、絵本の概念、各国の絵本などについていろいろお話をうかがいました。

北川さんが絵本に関心を持ち、本格的にしらべはじめた動機は、洋書関係の仕事中にたまたま外国の絵本を手にした時の体験——こんな絵本があるのか、というおどろき——がもとになっているとのことです。

このおどろきの体験を、世間一般の人にもあじわってほしいという願いをこめて展示会が実施されたのですが、実物にぶつかって体験的につかむことへの期待のこの態度は、私たちの訪問の際にも一貫してもっておられ、ひとのかかえの絵本を前にして、話を具体的に

すすめてくださいました。

絵本を生み出す側と買ったたり使ったりする側との間の位置にあり、しかも、世界の本の窓口の立場にあるということから、日ごろ、北川さんがお感じになったり、お考えになっていることを中心に話し合ったことを、ここで、まとめてみることにしました。

○ こんな絵本がある

対象認識を育てるために対象を絵で示した絵本、絵が物語りの説明としての役割をもつ、さし絵的絵本。このようなイメージが、一般の人の絵本のイメージではないでしょうか。「絵が描いてあれば絵本だ」という消極的絵本観を脱して、絵本の存在価値、利用価値は

認められているにしても、この場合、絵が文のためにあったり、文が絵のためにあったりしています。このような、物語りちゅうの代表的な場面が説明的に絵にあらわされていたり、絵の解説として文があったりするたぐいの絵本のほかに、次にのべるような、こんな絵本が考えられないでしょうか。絵と文とが一体になってひとつのことを語りかける絵本、絵と文とが重複することなく、絵も文も互いに働きかけあうことによって一体化したものをさらにどんだんのばしていく可能性を含む絵本。「こんな絵本」は事実諸外国でどんだん生みだされています。こんな絵本の製作に当っては、文と絵の画面上のレイアウトの仕方に、心構えと技術が必要です。

外国の例では、文も絵もひとりで製作する場合、夫婦で分担する場合、コンビをつくって常に協力的体制の中で製作する場合が、現在、よくみうけられます。製作上の呼吸の合わせかたが作品を決定する一つの条件になります。日本では、外国ものの翻訳が多いのですが、最近この方面ですぐれた、オリジナルなものが出版されつつあります。

○ 絵本づくり

外国のものがすべてよいわけではありません。外国でも、割合からみると、すぐれた絵本はむしろ少いかも知れません。しかし、す

ぐれた絵本をつくりだす努力——よい作者を発掘する努力——の点では、外国の方がまさっていたようです。絵本づくりが片手間仕事と考えられるのではなく、一つの児童文学のジャンルだという意識でつくりだされる必要があります。絵本は子どもがはじめて手にする本だといういみで、大事なものに對する認識が、もっと追究されていいのではないのでしょうか。

○ 日本の事情・外国の事情

外国で、すぐれた絵本づくりへの努力がなされていることの裏づけとして、体制の問題もあります。アメリカなどのように公共図書館制度が発達していたり、ソビエト、東欧のように団体制であるということにもとづいています。すぐれた絵本をつくりだしても売れないのではないかという危惧をほらむ日本の事情とは違って、アメリカの場合でいうと、すぐれたものをだせば、必ず、数多い公共図書館で推選され、結果として採算が成り立つという自信があるわけです。

○ 世界の絵本

いったい絵本には、歴史性、地域性がどのように入ってくるものなのでしょうか。すぐれた絵本は、時間をも空間をも超越したところに

あるものでしょうか。世界の絵本を前にしてこの問題にせまってみましょう。

絵本に関する根本的な考えかたからいうと、考えかたがたくさんあるわけではなく、原則的には一つだろうと思われれます。しかし、各国の国民の感情、すなわち、感じかたからいいますと、各国間に差異がでてくるものと思われれます。感じかたにおける国民性といってもいいでしょう。このことによって、すぐれた絵本とはいっても、その国その国の特徴が見出され得ると思われれます。

最近の世界の絵本をみくらべて、絵本に関する代表的な国の特質を調べてみましょう。

スイス・絵本の質がとても高い。ストーリーがしっかりしており、レイアウトがストーリーにに応じてよく考慮されている。

アメリカ・絵本の種類・数が非常に多い。すぐれたものも多いが、

大衆向きのディズニーもの（図書館には推選されていない）も生産されている。最近、一部のグラフィックデザイナーが絵本部門に進出してきており、アイデアで勝負しようとする気運が目立つ。絵本の条件の一つとして、おとなの観賞にもたえるということが要求されるが、これらは全部が全部というわけではないが奇をてらうこと

に走ったり、子ども不在となるおそれがあり、一面では危険さを含んでいる。

イギリス・伝統をもってすぐれた絵本づくりをしている。内容的レベルが高い。

フランス・手法にバラエティが感じられる。やわらかく美しい色調が多い。

ドイツ・原色が多く、直線的でダイナミックなタッチが目立つ。強烈な色調。

チェコ・印刷術が非常にすぐれている。ドイツよりやわらかさがあがるが、ドイツに近い特徴をもつ。

ポーランド・イメージがわかりやすい絵の工夫がみられます。

北 欧・デザインがすぐれている。

○ さ い こ に

すぐれた絵本づくりへの努力とともに、うけ手の側の絵本に関する認識を高めていくことが、与え手、受け手双方をよくすることに役立つのではないか。絵本の研究が各方面で深まり、出版関係のジャーナリズムがよいものをどんどん紹介することも、絵本を発展させる力になると思われれます。